

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：37102

研究種目：奨励研究

研究期間：2020～2020

課題番号：20H00683

研究課題名 子ども向け出版物の中のレーニン像： 個人崇拜と国民の教化

研究代表者

福間 加容 (Fukuma, Kayo)

九州産業大学・美術館学芸室・学芸員

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 480,000 円

研究成果の概要：本研究は、ソ連期における、レーニン像を通じた、こどもの国民化について考察するものである。主たる分析の対象として、ソ連時代、停滞期とされたブレジネフ期に、上質の紙に多色刷りされた、非常に大判の紙芝居のような出版物に注目した。それらの出版物にもっとも多く描かれていたのは、レーニンについてだった。子どもたちにとって、自分と同じくらいの歳のレーニンや、自分のお爺さんが直接知るレーニンのイメージは、身近に感じられたに違いない。本研究では、身近なレーニンのイメージを通じて、倫理的規範やレーニンへの敬愛、ひいては愛国心を刷り込んで、子どもが国民として陶冶されていたことを再構成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ブレジネフ期のソ連では、子どもを国民化し、国家体制の安定を図るために、子ども向けのレーニン像が創られていたことを初めて指摘し、そのイメージの持つメッセージについて考察を行って、ソ連期における文化戦略と国民教育の一側面を明らかにした。

研究分野：美術史

キーワード：子ども レーニン 国民化 プロパガンダ

1. 研究の目的

ソ連期、国民の間にもっとも普及したイメージはレーニン像であろう。本研究では、子ども向けに広められたレーニン像を対象として、ソ連期における、イメージ（視覚表象）を通じた、子どもの国民化について考察するものである。

2. 研究成果

本研究では、ソ連期に制作されていた、大きな紙芝居のような、特殊な出版物を再発見し、その多くが、レーニンを主人公にした物語だったことに注目して、主たる調査の対象とした。それらは、上質な厚手の大判の紙に多色刷りで、子どもたちにむけてつくられていた。コロナ禍により、現地での資料収集が不可能になったため、モスクワの国立図書館図像部とオンラインでコンタクトし確認してもらって、資料を収集することができた。

それらの作品はブレジネフ時代に制作されていた。図像分析の結果、それらは、民衆木版画を思わせる、スターリン時代に奨励された、プリミティブなスタイルで制作されていた。また、制作した画家は多数だったのに対し、労働者とともに率先して木材を運びレーニン、市井の人々に囲まれて語らうレーニン、絵に描いたうさぎについて子どもと話すレーニン、博物館に設置されたレーニンの胸像の前に集う小学生たちの絵など、レーニンのイメージは限られていた。なかでも次の二つのイメージ/物語は、一枚の絵ではなく、紙芝居のように何枚もの絵により表現され、た数も多い以下の点でもっとも注目される。その物語とは、M. ゴシチェンコ『レーニンの物語』（1939）の16の物語の中の「デカント」と、Ia. ピニャソフの『なんの変哲もないミトン』（1980）である。「デカント」は、子どもの頃のレーニンが、叔母さんの家で子どもたちと一緒に目隠しをして鬼ごっこしていた最中、あやまってガラス瓶を割ってしまった話である。レーニンを含む子どもたちは口をつぐんでしまい、叔母さんは「ガラス瓶はひとりでに割れたんだらう」と言って問いたださなかった。しかし、良心の呵責に苛まれた子どものレーニンは、数ヶ月たって枕辺にきた母親に告白し、心安らかに眠りにつくという話である。子供の頃、ワシントンが斧で桜の木を伐った物語と同様、正直であるよう説く話だが、いくつかの違いがある。「デカント」の場合、1) 他の子供は嘘をついたままだったのに、レーニンだけが勇気をもって告白したこと、2) 母親たちが感心した、数ヶ月間も良心の呵責に耐えたという並外れた忍耐力が強調されることである。「なんの変哲もないミトン」では、

日々の子どもの遊び、いつもそばにいる優しいお爺さんという、何の変哲もない日常体験の情景から、子どもたちはレーニンのイメージに導かれる。

これらの出版物は、停滞の時代と言われるブレジネフ期に制作されていた。この出版物はプロジェクターの要る映像より持ち運びが楽で、簡便に上演できたであろう。レーニンについて書かれたいくつもの物語の中から、このメディアのために選ばれた物語は、ブレジネフ期の体制が特に何を子どもに望んだかを端的に示していると思われる。

本研究では、レーニンのイメージを通じて、体制の永続化を図る、ソ連政府の文化政策の一部を明らかにした。子どもにとって身近な存在としてレーニンを歴史化する物語とイメージを紡ぎ出すことで、子どもに倫理的規範と国の「祖父」としてのレーニンを敬愛する心を育むことが目的としていたのである。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------